

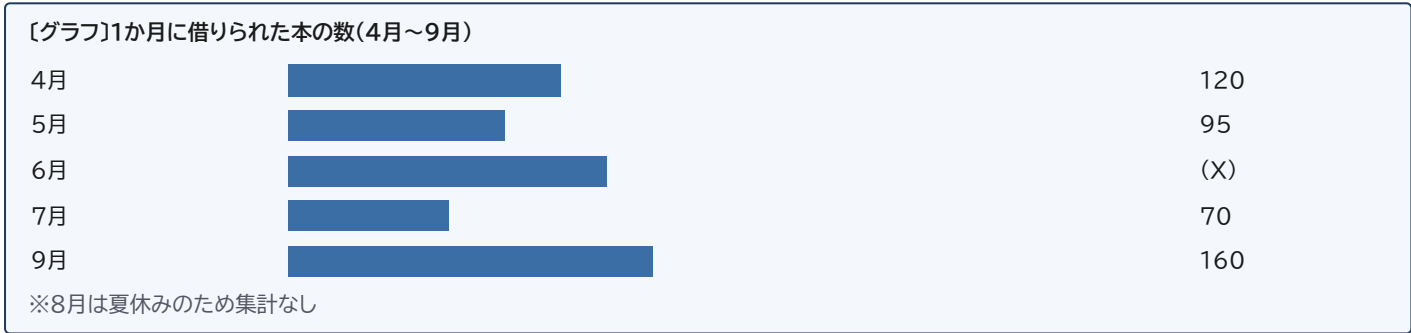
グラフ・資料統合 No.2(図書室の貸出グラフ) **L1 標準**

Class _____ No. _____ Name _____

レベル:L1(都立共通・神奈川の共通問題レベル)	目標時間:18分	満点:100点(自己採点)
--------------------------	----------	---------------

次の英文は、図書委員のミカ(Mika)が学校新聞に書いた記事です。[グラフ]とあわせて読んで、あとの各問に答えなさい。グラフの(X)に入る数は、本文から考えます。(A)～(D)は問3で使う印です。

- ① How many books did our school borrow from the library this year? As a member of the library committee, I checked the numbers from April to September. The graph shows the result. When I first saw it, I found two surprising things.
- ② First, look at June. It was the top month. In June, students borrowed twice as many books as in July. Why? I think the answer is rain. During the rainy season, students cannot play outside at lunch time, so many of them come to the library. For the library, rain is not bad weather at all. **A**



- ③ Second, look at September. The number jumped to one hundred and sixty — the highest of all. This was not because of the weather. In September, our school had Book Week. During the week, the library shows new books near the door, and students introduce their favorite books in class. **B** Events like this can change students’ feet: they walk to the library, not past it.
- ④ The graph also shows a quiet problem. In July, the number dropped to seventy. Tests were coming, and many students said, “I have no time to read.” I understand the feeling. **C** But reading is not the enemy of studying — even ten minutes of reading can be a nice rest for your brain between studies.
- ⑤ The library committee will start a new event in October: “One Book, Ten Minutes.” You just come and read anything for ten minutes after lunch. **D** The library is waiting for you — on rainy days, on busy days, and on any day.

[注] library committee 図書委員会 / borrow ～を借りる / rainy season 梅雨 / jump はね上がる / Book Week 読書週間 / introduce ～を紹介する / past ～ ～のそばを通りすぎて / drop 下がる

グラフ・資料統合 No.2(図書室の貸出グラフ) **L1 標準**

設問 本文の内容について、最も適切なものをア～エから1つずつ選ぼう。

問1(15点) [グラフ]の(X)に入る数として正しいものはどれか。 ア 95 イ 120 ウ 140 エ 160	()
問2(15点) 下線部はないが、第②段落の内容として、ミカが「rain is not bad weather at all」と言う理由に最も近いものはどれか。 ア 雨の日は本がぬれないように図書室が閉まるから イ 雨で外遊びができず、多くの生徒が図書室に来るから ウ 雨の音を聞くと本が読みたくなるから エ 雨の日は先生が図書室で授業をするから	()
問3(15点) 次の英文を本文中の(A)～(D)のどこかに入れるとき、最も適切な場所はどれか。 In fact, more than half of the class read a book they found during that week.(実際、クラスの半分以上が、その週に見つけた本を読んだ。) ア (A) イ (B) ウ (C) エ (D)	()
問4(15点) 第③段落の change students' feet の意味として最も適切なものはどれか。 ア 生徒のくつを新しくする イ 生徒の足を速くする ウ 生徒の行き先を変える エ 生徒を疲れさせる	()
問5(20点) 本文と[グラフ]の内容と合っているものはどれか。 ア 9月の貸出数は、7月の2倍より多い。 イ 4月の貸出数は、5月より少ない。 ウ 7月に数が下がったのは、雨が少なかったからである。 エ 図書委員会は9月に新しいイベントを始める。	()
問6(20点) この記事でミカが一番伝えたいことはどれか。 ア 図書室の本の数を増やすべきだ。 イ テスト前は本を読んではいけない。 ウ 梅雨は1年でいちばん良い季節だ。 エ どんな日でも、図書室はあなたを待っている。	()

とき終わったら

かかった時間(分 秒)→ 次のページの解説で自己採点 → 得点(/100点) まちがえた問題こそ宝。解説の「誤答の切り方」まで読むと、次の1枚で点が変わる。

解答一覧(まず自己採点)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	得点
ウ	イ	イ	ウ	ア	エ	/100

問1 正解 ウ(15点) | 「～倍」の数字関係は、基準(～as ... as)の数を先に確定する

根拠 第②段落 In June, students borrowed twice as many books as in July.(6月は7月の2倍)。グラフより7月は70冊。よって6月=70×2=140。グラフの棒の長さ(9月160より少し短い)とも合う。

誤答の切り方

ア	95は5月の数。月のすり替え。
イ	120は4月の数。「2倍」の計算をしていないと選びがち。
ウ	7月70冊の2倍=140。棒の長さの順(9月>6月>4月)とも一致する。
エ	160は9月の数。「top month」という言葉だけで最大値を選ばと、9月と混同する——6月は4～7月の中でのトップ。

🔑 この形式のコツ twice as many as ~(～の2倍)が出たら、まず「～」側(基準)の数をグラフで確定→かけ算。最後に棒の長さの大小関係と合うか目で検算する。

問2 正解 イ(15点) | 「理由」問題は because がなくても so の前後に根拠がある

根拠 students cannot play outside at lunch time, so many of them come to the library(外で遊べない→だから図書室に来る)。図書室にとって雨=来客が増える天気、だから「悪い天気ではない」。

誤答の切り方

ア	図書室が閉まる話は本文にない。むしろ人が来る話。
イ	so の前後の因果関係そのまま。
ウ	雨の音の話は本文にない。それらしい情緒に流されない。
エ	先生の授業の話も本文にない。

🔑 この形式のコツ 理由を問われたら、本文の so / because / ～, so を探す。so の前が理由、後が結果——この向きを取りちがえないことが大事。

問3 正解 イ(15点) | 挿入文の that week が「どの週か」を教えてくれる

根拠 挿入文の during that week(その週に)が指せるのは、第③段落の Book Week だけ。(B)に置くと「読書週間の活動→実際、半分以上がその週の本を読んだ」と、効果の証拠として自然につながる。

誤答の切り方

ア	(A)第②段落は梅雨の話。「週」はまだ出てこない。
イ	(B)Book Week の説明の直後——that week の指す相手がある唯一の場所。
ウ	(C)第④段落は7月の落ちこみの話。読んだ人が増えた話は合わない。
エ	(D)第⑤段落は10月の新イベントの話。that week が指す週がない。

🔑 この形式のコツ 挿入文の that + 名詞(that week, that day)は this と同じ「直前に相手が必要」な言葉。名詞(week)が本文のどこに出たかを探せば、候補は一気に絞れる。

問4 正解 ウ(15点) | 比喩表現は「直後の言い換え」で確かめる

根拠 直後にコロん(:)があり、they walk to the library, not past it(図書室のそばを通りすぎるのではなく、図書室へ歩いていく)と説明されている。「足を変える」=向かう場所を変える、という比喩。

誤答の切り方

ア	くつの話は本文にない。文字どおりに取るワナ。
イ	速さの話もない。
ウ	コロんのあとの説明(通りすぎる→入っていく)そのまま。
エ	疲れの話はない。

🔑 この形式のコツ 英語の比喩はほぼ必ず、直後にコロん・ダッシュ・言い換え文がついてくる。「変な表現だな」と思ったら、訳そうとする前に直後を読む——筆者が自分で解説してくれている。

問5 正解 ア(20点) | グラフ×内容一致は「計算1回」で決まる選択肢から切る

根拠 9月=160、7月=70。70×2=140<160なので「2倍より多い」は正しい。グラフの数字だけで確定できる。

誤答の切り方

ア	160>140(=70×2)。計算どおり。
イ	4月120>5月95。大小が逆。
ウ	7月の理由は「テストが近くて時間がない」(第④段落)。雨は6月が増えた理由——理由のすり替え。
エ	新イベントは10月から(第⑤段落)。月のすり替え。

この形式のコツ グラフつき内容一致は、①数字だけで判定できる選択肢を計算で先に処理 ②理由・時期の選択肢は本文と照合。「数字は合うが理由がちがう」すり替えが定番のワナ。

問6 正解 エ(20点) | 新聞記事の主題は「締めの一文」+ 数字の物語

根拠 最終文 The library is waiting for you — on rainy days, on busy days, and on any day. がそのまま主題。グラフの3つの動き(雨で増・イベントで増・テストで減)すべてを「それでも図書室へおいで」につなげている。

誤答の切り方

ア	本の数を増やす話は出てこない。
イ	第④段落は「読書は勉強の敵ではない」——真逆。
ウ	梅雨は「図書室にとって悪くない」と言っただけで、season の良し悪しの話ではない。
エ	締めの一文そのまま+全段落をおおう。

この形式のコツ グラフ記事の主題は「数字の紹介」ではなく「数字から筆者が引き出したメッセージ」。締めの一文と、各段落の数字の動きがそのメッセージに向かっているかを確かめる。

本文の設計図(段落メモ)——復習は「1段落1行」でまとめ直すのが最短

①	導入=4~9月の貸出数を調べた。おどろきが2つ
②	発見1=6月がトップ(7月の2倍)。理由は雨——外で遊べない日は図書室が混む
③	発見2=9月は160で最高。読書週間のイベントが「生徒の足」を変えた
④	問題=7月は70に減少(テスト前)。でも10分の読書は脳の休憩になる
⑤	行動=10月から「One Book, Ten Minutes」。どんな日でも図書室は待っている

もう一段のぼる 今回の(X)は「2倍」という言葉から計算する型だった。No.3(職場体験)では、大小関係(～より多い・少ない)と合計の両方から(X)をはさみうちにする——資料問題の最終形だ。

先生向け・運用ノート チャレンジ棚・図書委員会や読書週間の前に配ると実生活と直結する(本文約310語+グラフ。計30分)。問1の誤答分析(120と160を選ぶ生徒のちがいは)は授業の小ネタになる。配点は問1~4各15点・問5~6各20点。